

仕事なされた。参加者は技術 剣な表情で聞き入っている。修がや知識の向上のため、真た。

電所の完成祝う

田市が全国に先駆け実施

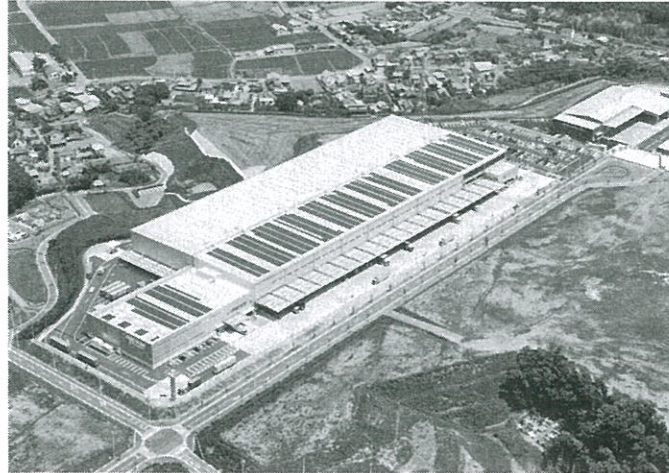
ケインズ屋根にパネル4560枚

はじめ太田市議会議員など多数の来賓が訪れ、発電所の完成を祝った。

同施設は全国の自治体に先駆け、同市が民間企業の屋根を賃借、太陽光パネルを設置したもので、ケインズ（土屋裕雅代表取締役社長）の太田物流センターの屋根部分を利用し、パナソニックが太陽光パネル4560枚を設置、今後20年間の管理を市から委託されている。売電電力量は年間約110万8000kW



川端部長 土屋社長



太陽光パネルを設置した太田物流センター

も太陽光発電のまちおわたの発展に協力をいただいた。さらに社会資本を充実させ、これからの先頭に立って新しい道を進んでいきたい」とあいさつ。続いて、ケインズの土屋社長が「太田市のチャレンジ精神は一経営者としても誠に感嘆している。（太陽光パネルを設置した）太田物流センターは、われわれの発展の中核を担う重要な施設。市とともにさらなる発展に尽力していく」と述べ、パナソニックエレクトロニクスがソーラーソリューションズで

業統括部の川端一嘉統括部長は「日本のエネルギー事情を見ると燃料資源をほぼ外国に頼っており、これから再生可能エネルギーである太陽光発電の需要はさらに高まると見られる。今回の設置後、実際に設置しているにあたっての特徴は、多数の太陽光パネルを屋根の上に設置したこと、自治体が民間の土地を借りて実施することで、これからの市町村のモデルとなる」と話した。その謝状が贈られた。

太阳光モジュールの除幕式が行われ、清水市長からケインズの土屋社長と三井住友トラスト・パナソニックファイナンスの恒吉邦彦常務取締役へ感謝状が贈られた。

早大生が展示住宅視察 エアムーブ工法を体感



田辺教授 松井社長

4860㎡のエアムーブ住宅展示場（フォレストモール新前橋敷地内）へ早稲田大学創造理工学部建築学科の学生9人が視察に訪れ、エアムーブ工法について理解を深めた。

エアムーブ住宅は太陽の熱で空気を循環させて家全体を均一な温度で包み、環境に配慮した高気密、高断熱、高換気の注文住宅として知られている。建築環境学の研究者として著名な早稲田大学の田辺新一教授もエアムーブ工法を「全国的に見ても仕組みが面白く、群馬県内では先駆けのスマートハウス」と評価。今回の視察は夏の工

田辺教授はこの工法を知った時は半信半疑だったが、1年間の検証を続けてきた中で家の中の空気がうまく循環していると確認できた。今後はこの工法をさらに最適化するにはどうしたら良いのかと一緒に研究していきたい」と話している。

中之条高生が就業体験 管内の現場見学など

農業 妻 吾 県 吾 妻 農 業 中 之 条 高 校 生 の イ ン タ ー ン シ ッ プ を 支 援 す る べ ン ま トライワーク推進事業の一環で、県立中之条高校環境工学科2年生3人が、23日から25日まで、管内の現場見学など



担当者から説明を受けた

などに加わり、同課の業務を体験する。同校では、吾妻郡内にある建設業や建設コンサルタント業などでも同じ期間で就業体験を実施している。

きょう、測量大会 農業系高校4校参加

えられる。第1回大会から県の農業土木技術職員が運営と審査協力してのり。



工法の説明を聞く学生と教授



視察した展示住宅